

子供たちの未来のための学校計画を



高見 博道 議員
(令和新風加西)



問 未来の学校構想素案では小学校が11校存続となっているが、その理由は。

答 素案に示す小学校の考え方は、11校の存続です。その上で、小規模化に伴うデメリットを緩和するため、学校間の交流や連携、ICT活用をした合同授業をさらに発展させていくことを意図して、学園構想を提案しています。小学校は、地域の核としての存在意義と自主的なまちづくりの拠点としての機能があり、これらの要素を勘案しての提案です。また、教育の質を確保するため、小規模

校においても組織的な指導体制や支援策を講じながら、安定し継続した教育活動が実施できるよう、学園構想を導入して11校を存続する考えです。一方、複式学級の発生も数年後に見込まれるため、保護者や住民の方が統合を望む場合は、統合について協議を始めるというただし書を添えています。

問 小学校は11校存続で、なぜ中学校は統合を急ぐのか。

答 中学校では、教科担任制度で学科指導をするには、全教科の教員がそろっていることが必要ですが、現状は1学年単学級となり、法律上必要な教員数を確保できない事態となっています。また、部活動では、生徒数が減って選択肢が限られる、団体競技でチーム編成ができずに運営が厳しい等の状況も起きています。中学

校は、小学校ほど工夫や手だてが生かされず、制度的な問題もあることから、優先して進めたいと考えています。

素案の2校案は、将来にわたって単学級が発生しない規模を確保していく考えからです。その上で学校の適正規模を維持する観点から、北条中学校は建築時期が新しい校舎であることも踏まえ既存のまま残し、善防、加西、泉の3中学校を統合する2校案が、将来にわたって生徒数が均衡し単学級が発生するおそれが少ないため、より望ましい姿と考えます。

意見 小中ともに再編するなら再編する、再編しないならしない方向で進むべきと思うが、主役の子供たちの未来が本当に明るく、加西市が選ばれる地になるような小中学校の学校計画を作っていたきたい。

補聴器の保険適用の拡充を



井上 芳弘 議員
(日本共産党)



問 加齢性の難聴について、これまで本会議でもお尋ねした経緯があります。

兵庫県では加齢に伴う難聴と社会活動の関連を調査するため、400名の参加者を募り、補聴器の購入に対し2万円を上限に補助されます。調査で必要性が認められれば、国に対して補聴器購入の補助を直接要望していくという内容です。

県内では明石市や相生市、養父市、稲美町等が既に補聴器購入の補助を実施しています。加西市でも実態調査をしていく必要がある

と思いますが、現在の状況をお尋ねします。

答 補聴器は、特に加齢性難聴では価格が標準的なもので片耳3万円から20万円と高額で、全額自己負担となるため使用率が低いと確認しています。また、兵庫県の調査結果を待つまでもなく、難聴になると人との会話や交流に支障を来し、家庭の中でも孤立しやすく、コミュニケーション不足により生活の質を落とす原因となることは、これまでの高齢者支援の経験からも把握しているところ です。

このような実態の把握と県の状況等も確認しながら、補聴器に限らず高齢者の方々が安心して生き生きと生活できるよう、必要な支援を検討します。



問 今おっしゃったように非常に高額です。保険が効かない。中等度の難聴は保険適用にならないからです。保険適用の枠を広げることにより補聴器が購入しやすくなるよう、国に要望していく取組も進めていただきたい。

答 ご指摘のように、市だけではなく国として必要な支援に取り組んでいただけるよう、要望等も検討します。



■その他の質問項目

- ・福祉施策について
- ・農政について
- ・都市整備関係について
- ・自治体と憲法について